



2023年12月5日

各報道機関 御中

2023年度 宮崎大学多言語多文化教育研究センター主催 10周年シンポジウム 「自分を知り、他者を理解する ～物語が映し出すことばと文化の世界～」

この度、宮崎大学多言語多文化教育研究センターが10周年を迎えるにあたり、記念シンポジウム「自分を知り、他者を理解する ～物語が映し出すことばと文化の世界～」を開催することとしましたのでご案内いたします。

10周年となる今回は、「物語が映し出すことばと文化の世界」と題し、第1部で本センター教員3名が講演を行い、第2部では、北海道教育大学教育学部の井筒勝信准教授による特別講演「ごめんください、こんにちは:他所のお宅に伺って」を行います。

今年設置されて10周年となります多言語多文化教育研究センターは、各国の言語や文化に関する研究に基づく教育を推進し、国際性豊かな人材を育成するとともに、その成果を還元することにより社会の発展に寄与することを目的としています。また、外国人留学生の学習や生活を支える日本語教育にも力を入れています。

2023年10月1日に公表された宮崎県の総人口は104万人台となり、今後も減少し続けていくことが予測され、少子高齢化による生産年齢人口の減少は大きな課題となっています。また、本県の産業を守っていくには、外国人実習生等の外国人への依存は続き、今後も県内で暮らす外国人は増加していくものと予想されます。

本センターとしましては、誰もが住みよい地域づくりを目指して多文化共生社会の実現に寄与していく所存でありますので、貴社の「インフォメーションコーナー・お知らせコーナー」等に掲載していただくとともに、取材についてご検討いただきますようお願いいたします。

記

日時: 2023年12月16日(土)13:30～15:35(13:00開場)

場所: 宮崎大学附属図書館3階「Hidamari」(木花キャンパス)

対象: 一般(興味のある方ならどなたでも参加できます)

定員: 20名(先着順)

申込: 12/12(火)までに、電話またはメールで「氏名・電話番号」を下記までお知らせください

その他: 詳細なスケジュールは別紙のとおりとなります

① 申込先・問い合わせ先

多言語多文化教育研究センター(原田)

E-mail: info_lang@of.miyazaki-u.ac.jp

TEL:0985-58-2515

② 発信元

企画総務部総務広報課(崎向・後田)

TEL:0985-58-7114

多言語多文化教育研究センター(通称タタセ)主催

10周年シンポジウム

自分を知り、 他者を理解する

～物語が映し出すことばと文化の世界～

本シンポジウムでは、「ことば」と「文化」を切り口に、タタセの教員たちがそれぞれの専門領域で取り組んでいる「自分を知り、他者を理解する」ことに関わる講演をお届けします。

会場: 図書館3階 Hidamari 2023年12月16日(土) 13:30～15:35
(13:00 開場)

～ 第1部 ～

13:30～13:35 開会の挨拶 (村上啓介 副学長・

多言語多文化教育研究センター長)

参加無料

13:35～13:55

「嘆願書が示す多様性: 1920年代のサモアにおける反統治運動」 矢野涼子 (英語教育担当)

1920年代のサモアでは第二次マウ運動と呼ばれる反統治運動が起きました。この報告では、運動の際に使用された嘆願書の分析を通じて、現地住民の多様性を示します。

13:55～14:15

「Kamishibaiプロジェクト活動: 日本語教育における複言語教育の試み」 小柴裕子 (日本語教育担当)

本プロジェクトは、母国の「お話」を通じて世界とつながり、他者や自己への理解を深めていくことを目指しています。今回は、本プロジェクトの経緯と概要についてご紹介します。

14:15～14:35

「クリスマスから見るドイツ人のメンタリティー」 胡屋武志 (ドイツ語教育担当)

イエス・キリストの生誕を祝うクリスマスは、キリスト教と異質な自然神秘主義の要素が数多く含まれています。今回は、ドイツの冬を彩るクリスマスとともに、ドイツ人のこころについて考えます。

14:35～14:50 休憩 (10周年のスライド上映、ポスター紹介)

～ 第2部 ～

14:50～15:10 ゲストスピーカー 北海道教育大学教育学部准教授 井筒勝信

「ごめんください、こんにちは: 他所のお宅に伺って」

訪問先でなされる挨拶等の遣り取りを中心にアイヌ語テキストの実例を参照し、多言語多文化教育の観点から考察を試みます。

15:10～15:30 質疑応答

15:30～15:35 閉会の挨拶 (金智賢 アジア・ヨーロッパ系部門長)